

兵庫県立神戸高等学校『SSH：シンガポール海外研修』実施計画書（確定版）

1. 実施目的

本校平成24年度SSH実施計画書で記載した「⑫国際性の育成」の実施のために、本校の姉妹提携校である Raffles Institution（シンガポール、以下 RI 校とする）に代表生徒（4名）を派遣し、RI 校をはじめとしたシンガポールの生徒を含む世界各国の生徒たちと、科学技術分野における英語での発表活動や交流および実験実習をともに行う。こういった活動を通して、英語のコミュニケーション力の伸長も含めた国際性の育成を図る。

2. 研修先及び研修内容

(1) 具体的研修内容

本校の姉妹提携校である RI 校に生徒を派遣し、RI 校主催の Raffles international science camp 2012（2年に1度開催、世界十数カ国から参加、前回は143名の参加）において、RI 校および他国の生徒と科学技術分野における交流およびブース発表を実施する。なお、ブース発表では、本校生徒は、課題研究およびサイエンス入門等での研究活動をさらに深めたものを発表すべく準備中である。さらに、RI 校および大学や研究機関での実験実習およびフィールドワーク等にも参加し、他国の生徒と同じグループで活動する。全日程を通じて、研究や実験についての知識や技能の習得はもちろんのこと、外国語によるコミュニケーション能力や国際感覚を育成する。

＊ なお、今年の8月には RI 校から本校へ数名の生徒が来校し、科学技術分野での交流を実施する予定である。

(2) 効果

① 参加生徒

- (ア) 発表 課題研究やサイエンス入門等で取り組んできた研究を他国の生徒に向かって発表し、意見交換をすることによって、新たな研究の進展につなげる。
- (イ) 交流 全日程を他国の生徒とともに活動することで、外国語によるコミュニケーション能力や国際感覚を育成することができる。
- (ウ) 実験実習 RI 校およびシンガポールのさまざまな場所で、「食品科学（Food science）」や「生物多様性ウォーク（Biodiversity walk）」など校内では経験できないような実験実習等を自ら主体的に経験することで、その実験や実習の知識、理解を深め、今後の研究に活かすことができる。
- (エ) 事後 今回の研修をまとめることで、また、校内で発表などを行うことによって、改めて自らの研究を英語で発表することの意義への理解を深め、さらには諸外国の生徒の活動に対する理解を深めることができる。さらに、本校の他の生徒へその成果を普及することができる。さらに、メール等によって、他国の参加者と継続した交流を持つことによって、海外へ目を向ける契機とすることができる。

② 企画全般

今回の海外研修については、SSH 事業の普及という観点からも、事前に全校生徒へプリント配布し、案内をした。さらに、校内の「国際交流基金委員会」とも連携しながら企画を進めており、次年度以降でも RI 校と科学技術分野における継続した連携がとれるように校内の体制を整えている。また、研修に関する情報を教員間で共有することで、「国際性の育成」に向けて、SSH 事業の内容の精選および工夫に取り組むことができる。

3. 研修日程・時程

平成24年6月 3日（日）～6月10日（日）7泊8日（機内1泊）

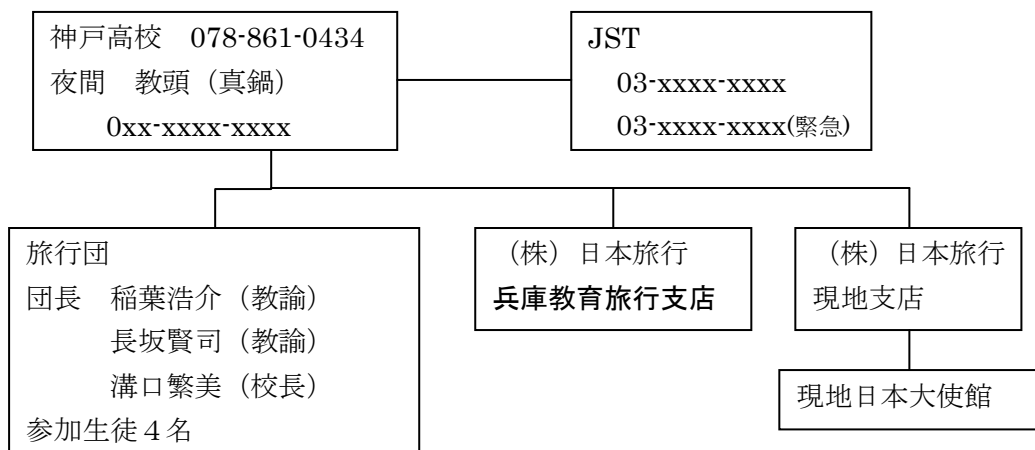
月日 (曜)	地 名	現地時刻	実施内容
6/3 (日)	三宮駅 関西国際空港 チャンギ国際空港	07:00 10:00 11:00 16:40	三宮駅集合、高速バスにて関西国際空港へ バス到着 関西国際空港発（SQ619 便） シンガポール着、入国手続き後、 Raffles Institution へ Raffles Institution 泊（宿舎）
6/4 (月)	Raffles Institution など	AM PM	登録、開会式 歓迎式典、ワークショップ ブース発表 Raffles Institution 泊（宿舎）
6/5 (火)	Raffles Institution など	AM PM	実験実習（工学分野） 実験実習（工学分野） Raffles Institution 泊（宿舎） (溝口校長 現地発)
6/6 (水)	Raffles Institution など	AM PM	(翌日 溝口校長関西国際空港着) 実験実習（ワークショップなど） 実験実習（生物分野など） Raffles Institution 泊（宿舎）
6/7 (木)	郊外	AM PM	実験実習（生物多様性：Biodiversity walk 等） プロジェクトプレゼンテーション ポスター発表 Raffles Institution 泊（宿舎）
6/8 (金)	Raffles Institution など	AM PM	実験実習（化学分野） フィールドワーク（熱帯雨林） Raffles Institution 泊（宿舎）
6/9 (土)	Raffles Institution	AM PM 20:00 頃	教授による締めくくりの講義、閉会式 異文化交流会とフェアウェルランチ Raffles Institution 発
6/10 (日)	チャンギ国際空港 関西国際空港 三宮駅	01:20 08:50 11:00 頃	チャンギ空港発（SQ618 便） 関西国際空港着 高速バスにて移動 三宮着・解散

4. 参加予定人数

合計 7名（引率教員3名 校長 溝口繁美、教諭 長坂賢司、教諭 稲葉浩介）
（内2名は県費から支援。内1名はJST支援。）
（参加生徒4名）

5. 安全対策

- ① 旅行傷害保険、欠航保険に加入する。
- ② 非常時の連絡体制を稲葉浩介（教諭）が確保する。また、学校内は以下の連絡網を通じた連絡体制を整えている。
- ③ 感染症対策として外務省情報など現地情報の収集に努め、状況によっては中止も含めて適切に判断する。
- ④ 安全体制（図示）



6. 事前準備

(1) 生徒の活動

- ① 「課題研究」および「サイエンス入門」および自主的な研究活動について、その研究を深め、現地にて（英語で）ブース発表できるように準備をする。
- ② シンガポールの教育および地理や歴史、また、RI 校についての情報の収集に努め、理解を深める。

(2) 教員の活動

- ① RI 校の担当者とメール等で打ち合わせをし、研修が円滑に進められるように配慮する。
- ② 本校のSSH事業の取り組みを紹介できるように資料等を作成し、現地訪問時に他国参加者との意見交換ができるようにしておく。

7. 事後の活動

- ① SSH 通信を通じて研修についての報告を全校生徒へする。
- ② 課題研究や理数科専門科目等の時間で、今回の研修についての報告を生徒発表のかたちで実施する。
- ③ 次年度以降、継続した交流ができるように配慮する（メールやFacebook、Skype等の活用）。
- ④ 平成24年度SSH事業報告書に成果をまとめ、外部へ発信する。

8. その他

SSH HPの活動事例データベースに報告を掲載する。

以上